

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和5年 3月 16日

コミュニティ名 問いクラウド研究会
代表者所属名 京都府立大江高等学校
代表者職・氏名 教諭 宮田 啓 央

京都府若手教員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名	問いクラウド研究会
2 研究テーマ	全国の教員が参加する「問い」をテーマにした対話型ワークショップを通じた自己研鑽の場の創出と授業への応用
3 研究の目的	(1) 理科教員による「問い」を中心としたワークショップを開催する。 (2) 「問い」を介した対話を通して授業力向上及び科目・単元に対する考え方の拡張を目指す。 (3) 実践発表会を設定することで、自身の授業をアップデートし、新たな観点で自らの授業を内省し、授業力向上を目指す。
4 研究の成果と課題	(1) 研究の成果 ア 「問い」の創出を目的としたワークショップの開催 問いを用いて対話することで、教師の単元に対して意見がぶつかることなく、様々な考え方を共有することができた。また、校種を超えて交流することで、問いの捉え方に多様性が生まれ大きな刺激となった。 イ 「問い」を中心とした実践報告会の開催 実際に使用した問いに対しての生徒の反応を中心に議論が行われた。生徒の理解を深める、学習意欲を高めるための工夫などが活発に行われ有意義な時間となった。 (2) 研究の課題 ア ワークショップの方向性 校種を超えた交流は得るものも多く大きな成果となったが、高校の専門性の観点から、より問いを深めていくという部分においては、昨年度の高校理科教諭を対象にしたワークショップの方が高い効果が得られたと感じている。 イ ワークショップ開催の周知について 昨年度の課題であった京都府の先生の参加が少なかったことに

	<p>に関して、今年度は昨年以上に個々の声掛けを行った。また、コミュニティ担当の長東様にも尽力いただき、コミュニティ内での告知もさせていただいた。その結果、昨年度より多くの先生方に参加していただくことができたがワークショップの開催を京都府の先生方にどう周知していくかは今後も考えていきたい。</p>		
5 研究成果の波及方法	<p>(1) ワークショップの開催 (2) ワークショップでの実施内容の報告を Web サイト上で公開</p>		
6 研究(活動)実績	年月	研究(活動)内容 (具体的に記載してください。)	活動場所
	令和4年		
	6月	ミーティング 3回	オンライン
	7月	ミーティング 3回	オンライン
	8月	ミーティング 2回	オンライン
	9月	ミーティング 2回	オンライン
	10月	ミーティング 3回 ワークショップ	オンライン
	11月	ミーティング 4回	オンライン
	12月	ミーティング 2回 ワークショップ	オンライン
	1月	ミーティング 2回	オンライン
	2月		オンライン
	3月	ミーティング 1回	オンライン